

# I. 調査要領

## 1. 調査時点及び調査対象期間

(1)調査時点 平成 26 年 4 月 1 日

(2)調査対象期間 平成 26 年 1 月～3 月期の実績および平成 26 年 4 月～6 月期の見通しについて調査した。

## 2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業+食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業+諸業部会より各 30 社、計 150 社を抽出し郵送により調査した。

## 3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回 答 率
商業+食品業部会	30 社	18 社	60.0%
水産業部会	30 社	19 社	63.3%
機械工業部会	30 社	18 社	60.0%
建設業部会	30 社	17 社	56.6%
観光・サービス業+諸業部会	30 社	18 社	60.0%
合 計	150 社	90 件	60.0%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

## Ⅱ. 概 況

－業況は依然好調だが、来期は大幅な悪化見込み－

### 1. 全体の動き(業況)

四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(平成26年1月～3月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比で4.5**と前回調査時の15.5より**11.0ポイントの悪化**とはなりましたが、依然プラスで推移しています。

全業種のDI値を見てみますと、建設業の工事増加などによる業況改善、機械工業や冬季観光で集客のあった観光サービス業などがプラス水準となっており、全業種トータルでプラス改善になりました。しかしながら、好調だった最盛期から冬期間の休漁を迎えた水産業の大幅な落ち込みと、多少回復したものの依然として-11.1ポイントと低調のまま推移している商業食品業により、前回よりも業況は落ち込んでいます。

部会別で前年同期比ベースをみると、商業・食品業 [前年DI値▲33.3→今期▲11.1]、水産業 [前年DI値▲33.3→今期▲31.6]、機械工業 [前年DI値▲12.5→今期33.3]、建設業 [前年DI値10.5→今期35.3]、観光・サービス・諸業 [前年DI値▲26.3→今期0.0]となりました。

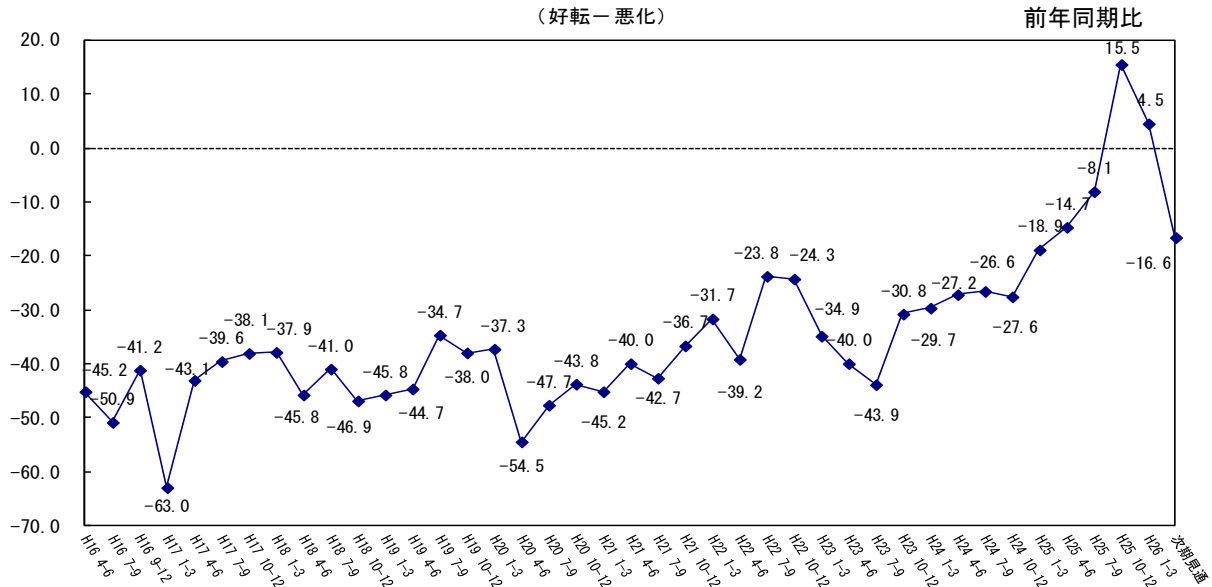
今回の調査では、建設業が好調で、新築住宅の建築申請が前年度に比べ倍増しており、4月からの消費税増税に備え、25年度内に申請をしたところが多く、最盛期に資材や人材が不足し、本来であれば閑散期となる冬期間も工事を行っていました。また、紋別市の認証材を使用した場合に市から最大100万円の補助が受けられる助成制度も申請件数が伸びた要因との声も聞かれています。平成27年度まで助成期間が延長されており、平成27年10月の増税前にも利用が増えてくるものと予想されます。更に機械工業部会では、休漁期間に伴う水産加工場の設備修理や車両重機等のメンテナンスなどの他、印刷業では増税前に伝票や領収書といった社名の入った印刷物の受注が増税の前に集中したとの声が聞かれました。商業・食品業は、依然としてマイナス水準ではありますが、前年に比べ22.2ポイントと大きく改善しており、増税前の駆け込み需要の獲得による影響が大きかったものと思われまます。大きな悪化を見せた水産業は、流氷の到来による休漁によるもので、大きな心配はないものと思われまます。依然としてロシアとのカニの協定が厳しくなるとの見方があり、カニ加工業者は非常に厳しい状況を強いられています。また飲食業などを含む観光サービス業諸業などについては、報道で観光客数減少とされていたものの、流氷観光と業績の良かった関係者による外食も多かったことも影響してか、業況もマイナスを抜けだし回復傾向となっています。

**次期(平成26年4月～6月)**については、全体では今期と比べて**業況判断DIが21.1ポイントと大きく悪化(次期見通し▲16.6)**するとの予測となっており、海明けと共に稼働し、今期よりも好転の見込みとなっている水産業以外、全て悪化の予想と、大幅なプラス回復を次期まで見通すことが出来ないという数字になっています。中でも流氷のシーズンを終えた観光サービス諸業の業種において業況指数が▲40ポイントに迫る勢いで悪化するとの見方が強まっており、増税に伴うガソリン等石油製品価格の上昇や、買い控え、消費意欲の減退が要因ではないかと思われまます。建設業と機械工業はポイント自体は悪化しているものの、依然プラス水準と、これから繁忙期になることも踏まえ、期待感も伺えます。

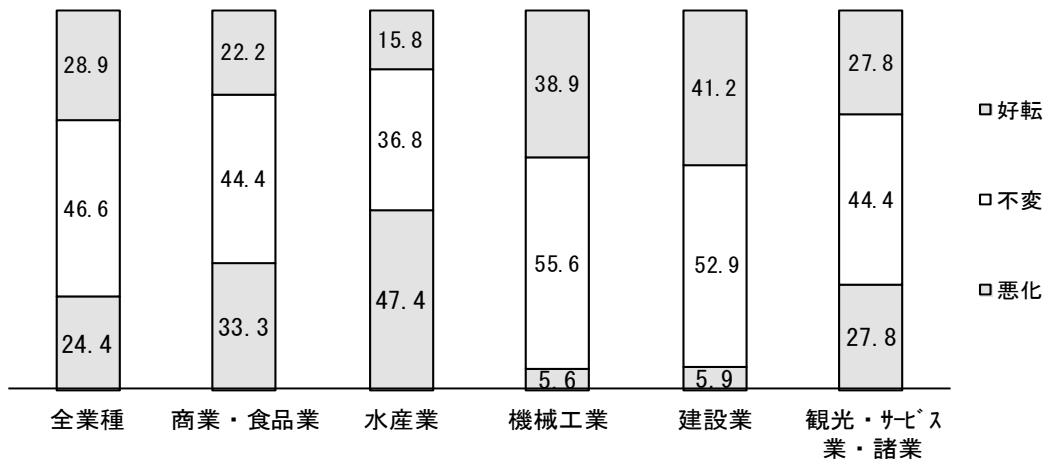
これまで業績悪化による市内の倒産や廃業は少なく推移してきましたが、中心商店街では既に今年中の廃業を決めている店舗もあり、閉店を惜しむ声も聞かれています。円安原油高騰による仕入れ原材料高騰や経費の増加が事業経営を圧迫しているという声も多く寄せられていますが、訪問調査ではほとんどのところが消費税増税分の転嫁はできており、特に目立った影響はなかったものと聞いております。今後も当所としましては、適正な消費税の転嫁対策が取られているか継続して調査を行うと共に、今後の景気動向や経営状況など様々な意見を伺いながらきめ細かな対応を行ってまいります。

## 業況推移 (全業種平均D・I)

(好転－悪化)



## 今期の業況 (前年同期比)



全業種の経営上の問題点としては、「消費者ニーズの変化への対応」「材料等の仕入単価の上昇」「人件費以外の経費の増加」「需要の停滞」を訴える声が多く寄せられており、円安や燃料代等の高騰に対する不安を訴える声が多くなっています。

### ■部会別の動向

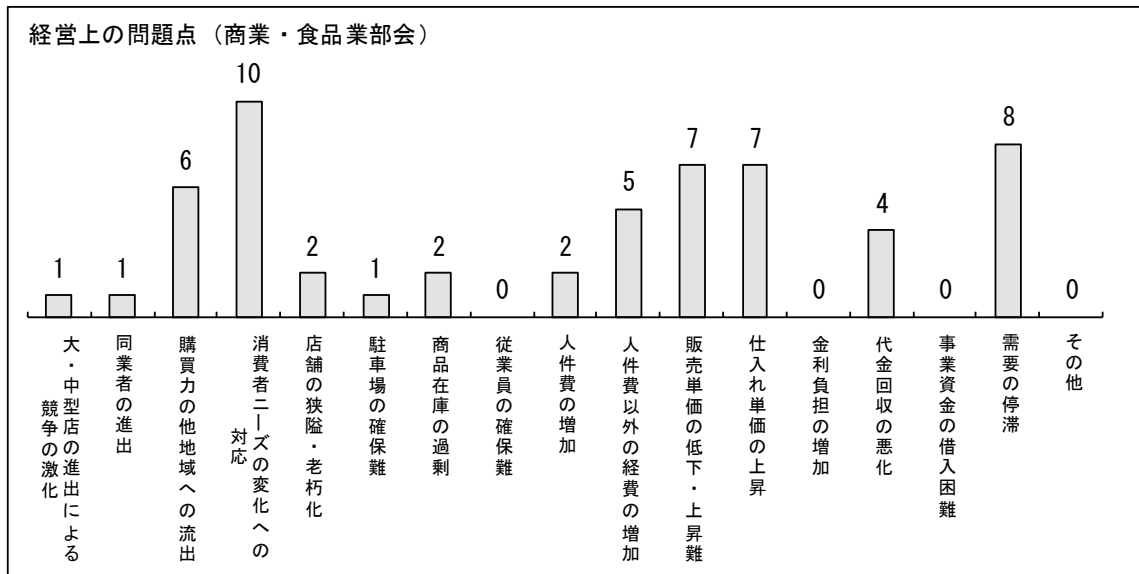
【商業・食品業部会】 [業況判断DI値(前年同期比)▲11.1(前年DI値▲33.3、来期見通し▲33.3)]

業況DI値(前年同期比)は、昨年よりはマイナス圏ながら少し回復傾向にありますが依然として厳しい状況で推移しています。消費税増税前の駆け込み需要による大幅な期待していましたが、大きな影響はなかったという結果になりました。次期見通しも、さらに悪化していくとの予想となっております。経営上の問題点としては「仕入単価の上昇」「購買力の他地域への流出」「消費者ニーズの変化への対応」「需要の停滞」「人件費以外の経費の増加」を訴える声が依然として多いことに加え、「代金回収の悪化」の意見も多くなっております。

### 《業界の問題点等》

- ・インターネット通販への流出(小売)

- ・消費税増加（小売）
- ・人口減少による購買力の自然現象（小売）
- ・これからは店舗だけではなく、インターネットにより、より多くの商品を取り寄せられたり、店受け取りができるようになり、この傾向が進んで来るので、それにどう備えるか。（小売）

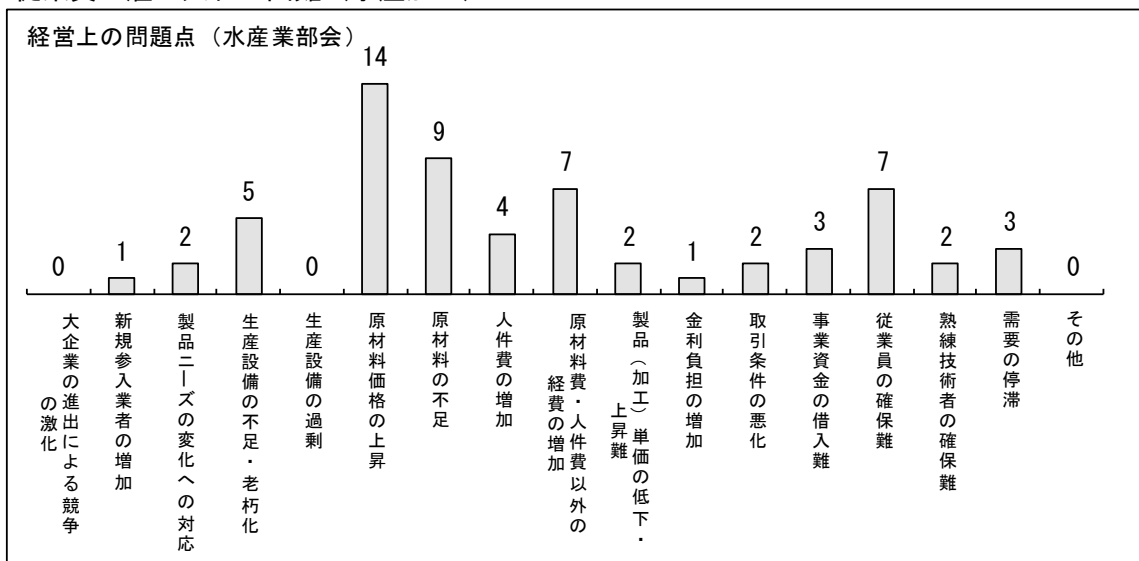


【水産業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲31.6（前年DI値▲31.6、来期見通し▲21.1）〕

業況判断DI値（前年同期比）は前年と同じく、大幅な悪化となっております。要因としては、鮭の水揚げが良かったことやホタテ水揚げも順調で単価も高く推移し配当も良かった前期から、休漁期に入ったことによる自然減であると思われます。また、今年は流氷が沖合に留まる時期が長く、海明けの毛ガニ漁にも影響があったと言う声も聞かれました。また、カニ輸入が奮わず、全般的な魚価の上昇に伴い水産加工業者には、仕入れ値の上昇による収益の悪化や原料不足の状態になるなど大きな打撃を受ける面もありました。経営上の問題点としては「原材料単価の上昇」「原材料の不足」「原材料費人件費以外の経費の増加」に加え、「従業員の確保難」を訴える声が多くなっております。来期の見通しとしては、海明けによる回復が見込まれるとの見方となっております。

《業界の問題点等》

- ・消費税の増税による消費の影響（水産加工）
- ・従業員の雇い入れが困難（水産加工）

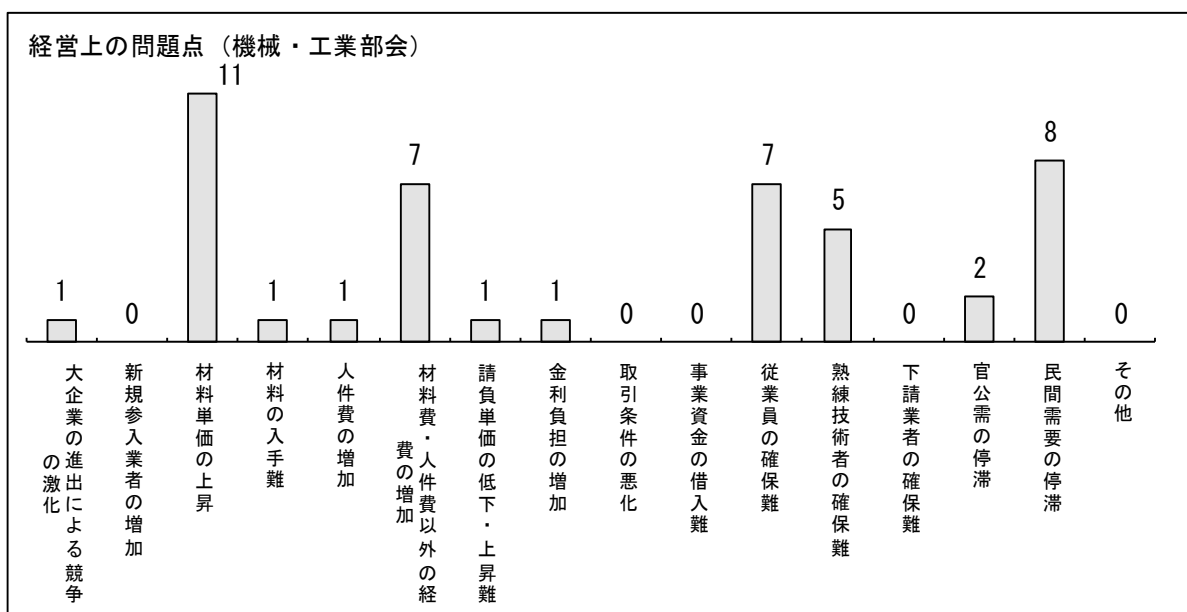


**【機械工業部会】**〔業況判断DI値（前年同期比）**33.3**（前年DI値▲12.5、来期見通し5.6）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、前期同様、前年比45.8ポイント増の大幅改善となりました。要因としては関連業種の水産業や建設業による工場機械や船舶の修理や重機トラックなど自動車整備の仕事が順調に回ってきており業況指数の改善につながっていると思われます。来期業況見通しは5.6と今期よりは悪化するものの、以前プラスでの予想となっております。また4月からの消費税が8%へ増税されることに伴い、消耗品のまとまった注文があり、納品は4月以降という仕事が多かったとも聞いています。経営上の問題点としては「材料単価の上昇」「民間需要の停滞」などを訴える声が多くなっております。

**《業界の問題点等》**

- ・人口及び市内の景気低減により、また、燃料（油）、電気料の高騰、材料の値上がりなどにより失行不安あり。（印刷業）
- ・平成26年4月以降、反動減の懸念（自動車販売業）

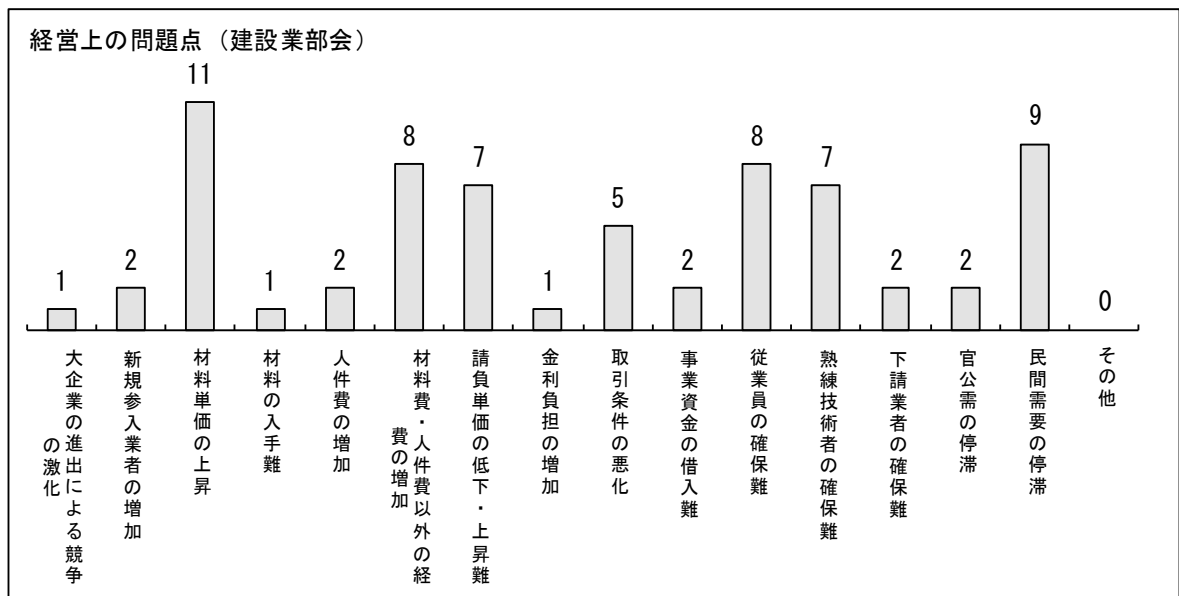


**【建設業部会】**〔業況判断DI値（前年同期比）**35.3**（前年DI値10.5、来期見通し5.9）〕

業況判断DI値（前年同期比）は前年比24.8ポイント増の大幅改善をしています。前期の調査では業況は悪化するとの見通しがされていましたが、これまで減少傾向にあった新築住宅の建築申請が前年度に比べ倍増しており、資材や人材が不足し、冬期間もアパート等の建設が行われていました。また、紋別市の認証材を使用した場合の助成制度も申請件数が伸びた要因との見方もあります。この制度は平成27年度まで活用期間が延長されており、平成27年10月に消費税が10%に引き上げられる前にも利用が伸びるとの見方をしております。次期見通しは、消費税が引き上げられたことにより、やや悪化するだろうとの見方が強くなっています。経営上の問題点としては「材料単価の上昇」「民間需要の停滞」「従業員の確保難」などを訴える声が多くなっております。

**《業界の問題点等》**

- ・消費税により材料費が値上がりしたが、仕事の単価が上がらず利益減少。（内装業）

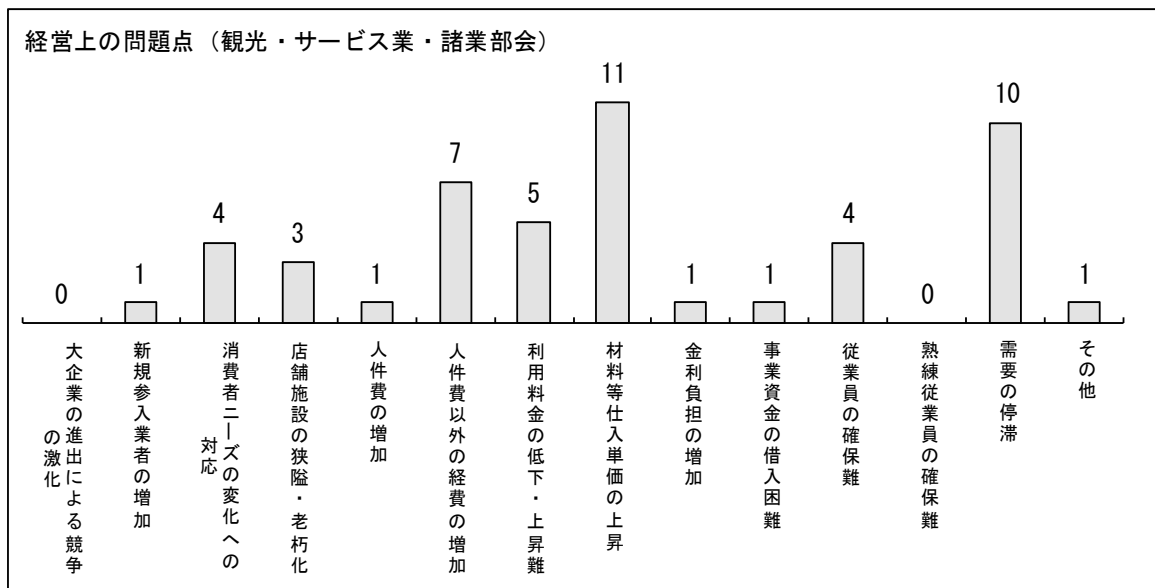


【観光・サービス業・諸業部会】 〔業況判断DI値（前年同期比）0.0（前年DI値△26.3、  
 来期見通し△38.9）〕

業況判断DI値（前年同期比）は前年よりも26.3ポイント増の大幅な改善はしていますが、悪化と好転が同数というバランスになっています。冬の流氷観光シーズンを迎え、観光客の増加に期待もされましたが、昨年よりも減少という報道発表がありました。地道なPR活動の成果や、業況の良かった業種の方々による外出も影響してか、海明けと共にマイナス域を脱しました。経営上の問題点としては、「材料等仕入単価の上昇」「需要の停滞」などを心配する声が多くなっております。

《業界の問題点等》

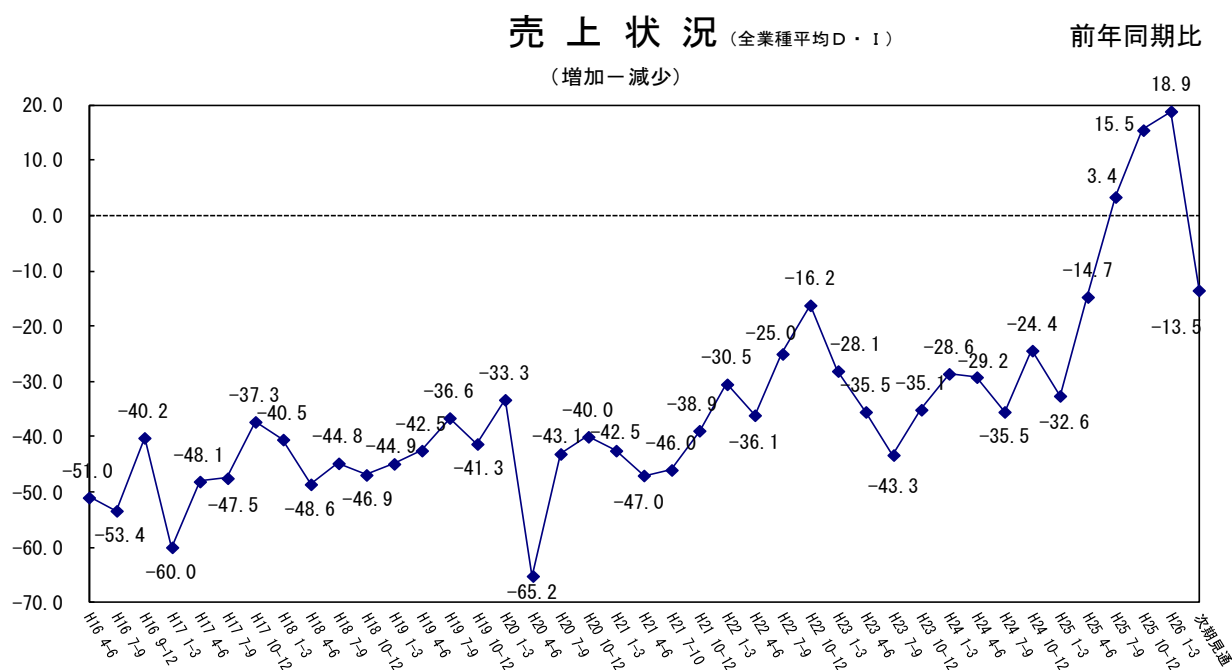
- ・業界としてまとまっていない。（飲食業）
- ・増税分の上乗せにする値上げを行ったが、消費の低迷と客足の減少が不安です。石油製品の価格の上昇で、GWひえの悪影響が不安材料。（飲食業）
- ・消費税アップの影響（卸売業）



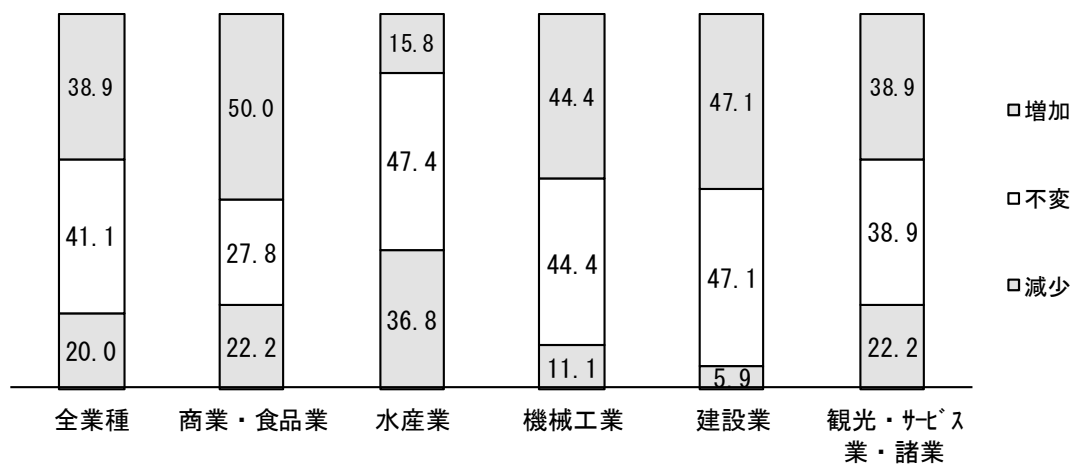
## 2. 今期の動向

### (1) 今期の売上高・生産高

【前年同期比】（平成 25 年 1 月～3 月期の水準と比較した今期の売上高）



### 今期の売上高・生産高（前年同期比）



全業種平均で DI 値 **18.9**〔前回調査時（平成 25 年 10～12 月期 15.5）より 3.4 ポイント改善〕  
商業・食品業、機械工業、建設業、観光・サービス業・諸業が大きく改善。

〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前年▲55.6→**27.8**〕、水産業〔前年▲33.3→**▲21.1**〕  
機械工業〔前年▲12.5→**33.3**〕、建設業〔前年▲21.2→**41.2**〕  
観光・サービス業・諸業〔前年▲36.8→**16.7**〕

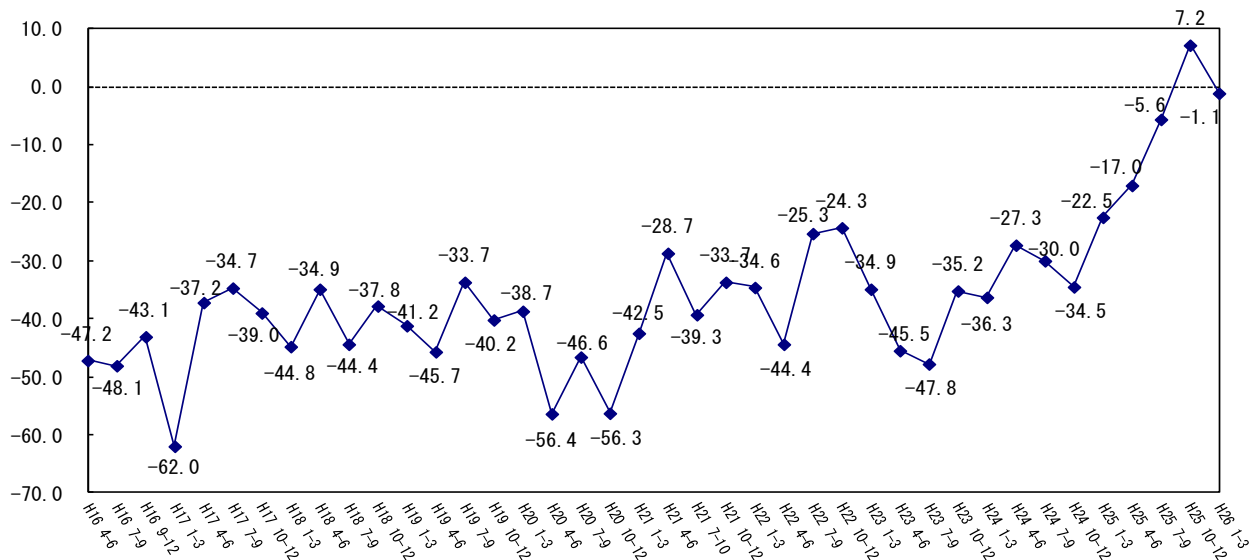
(2) 今期の採算

【前年同期比】（平成 25 年 1 月～3 月期の水準と比較した今期の採算水準）

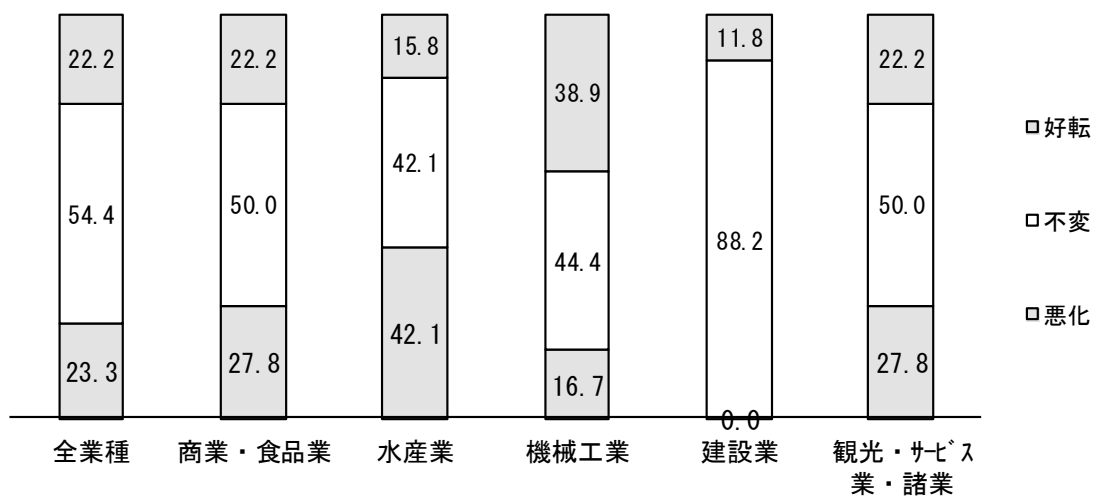
採算推移（全業種平均 D・I）

（好転－悪化）

前年同期比



今期の採算（前年同期比）



全業種平均でDI値▲1.1〔前回調査時（平成 25 年 10～12 月期 7.2）より 8.3 ポイント悪化〕  
商業・食品業、機械工業、建設業、観光・サービス業が大きく改善。

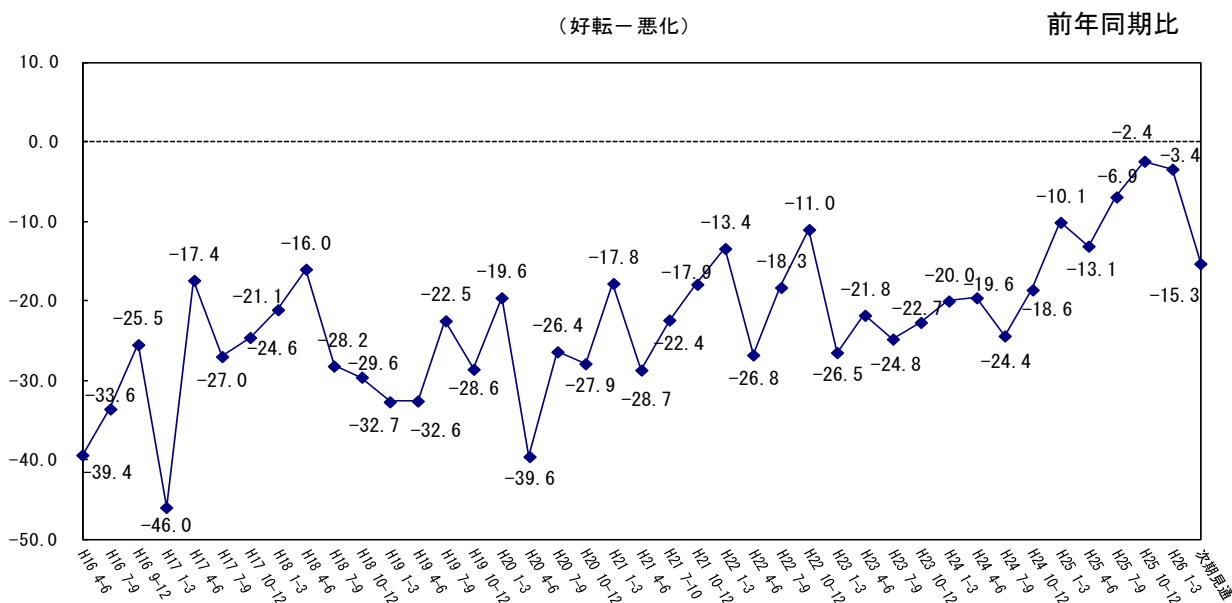
〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前年▲47.1→▲5.6〕、水産業〔前年▲22.2→▲26.3〕  
機械工業〔前年▲12.5→22.2〕、建設業〔前年▲5.3→11.8〕  
観光・サービス業・諸業〔前年▲26.3→▲5.6〕



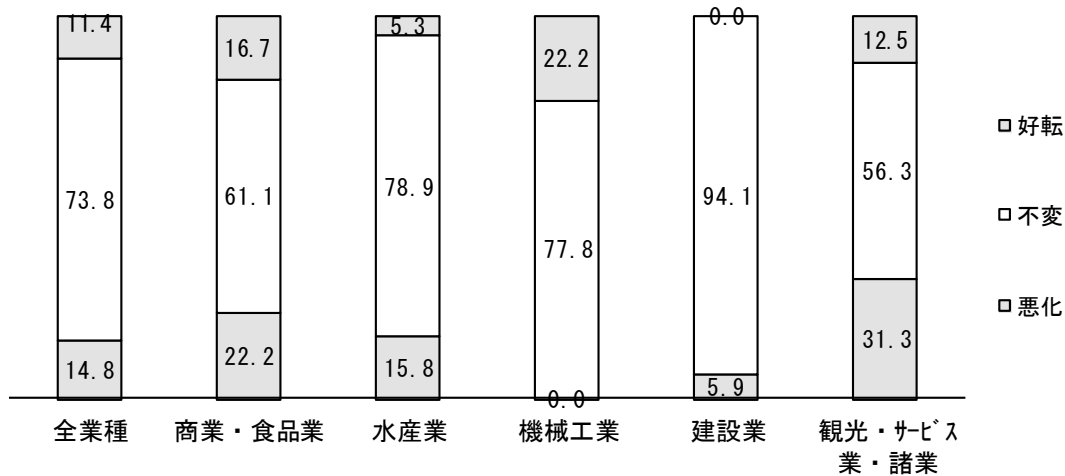
### (3) 今期の資金繰り

【前年同期比】（平成 25 年 1 月～3 月期の水準と比較した今期の資金繰り）

#### 今期の資金繰り （全業種平均D・I）



#### 今期の資金繰り（前年同期比）



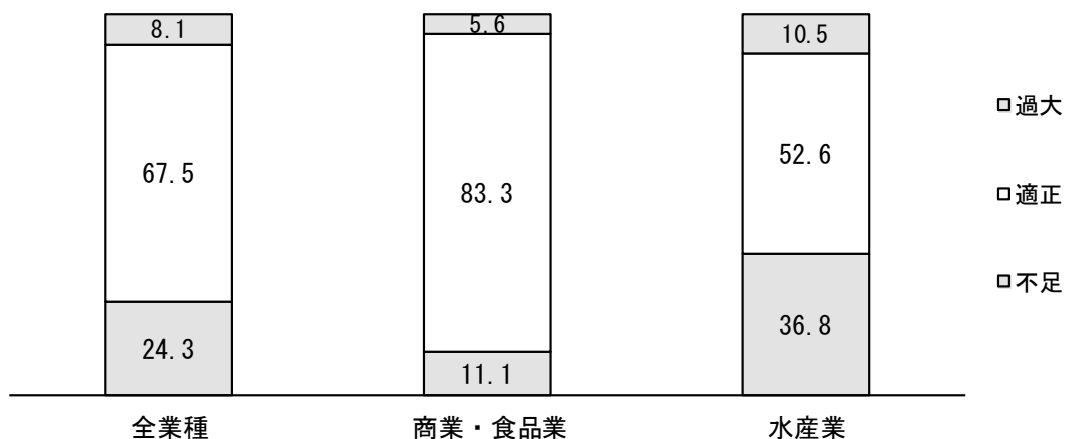
全業種平均でDI値▲3.4〔前回調査時（平成 25 年 7～9 月期▲2.4）より 1 ポイント悪化〕  
商業・食品業、機械工業、建設業が改善。水産業が大幅な悪化。

〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前年▲33.3→▲5.6〕、水産業〔前年 5.6→▲10.5〕  
機械工業〔前年▲6.3→22.2〕、建設業〔前年 0.0→▲5.9〕  
観光・サービス業・諸業〔前年▲16.7→▲18.8〕

#### (4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（平成 25 年 1 月～3 月期の水準と比較した今期の在庫水準）

##### 今期の在庫水準（前年同期比）



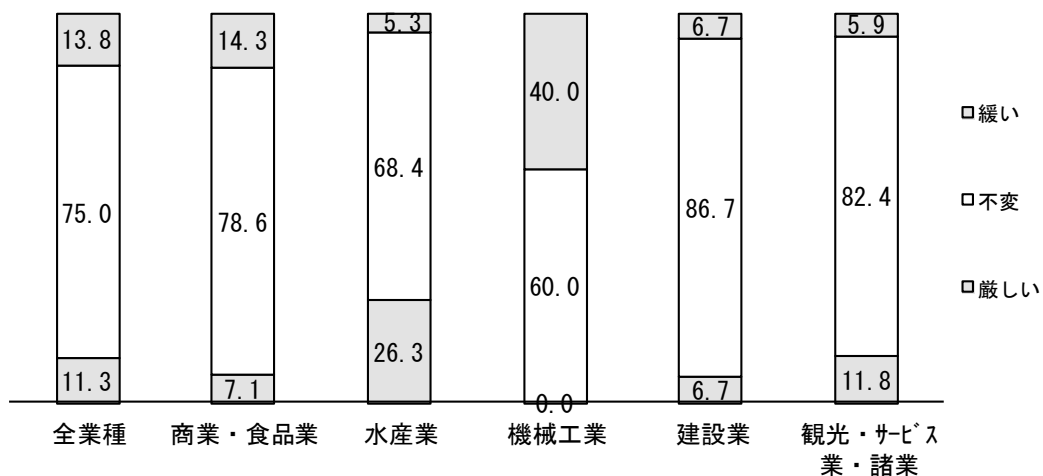
全業種平均で DI 値▲16.2〔前回調査時（平成 25 年 7～9 月期▲14.3）より 1.9 ポイント在庫不足〕

〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前年 5.6→▲5.6〕、水産業〔前年▲38.9→▲26.3〕

#### (5) 今期の金融機関の貸出姿勢

【前年同期比】（平成 25 年 1 月～3 月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出対応）

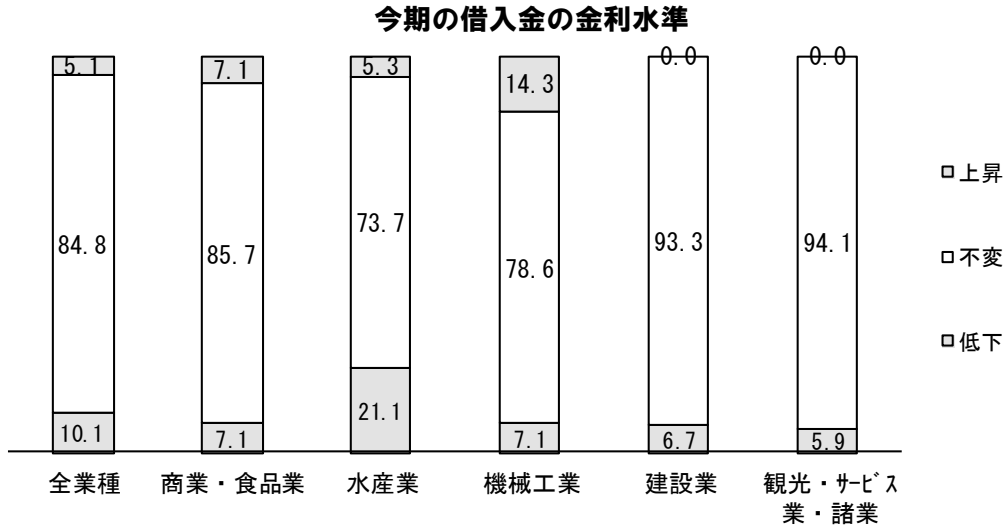
##### 今期の金融機関の貸出姿勢



全業種平均で 2.5 ポイント。商業食品業 7.1、水産業▲21.1、機械工業 40.0、建設業 0.0、観光・サービス業・諸業▲5.9

## (6) 今期の借入金の金利水準

【前年同期比】（平成 25 年 1 月～3 月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）

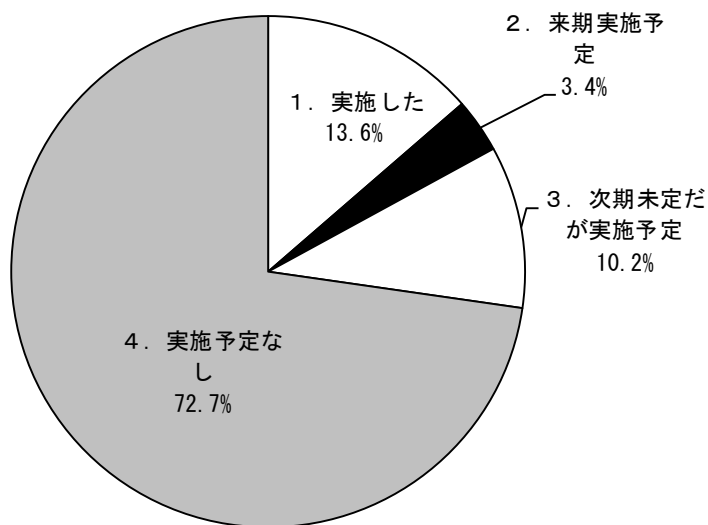


全業種平均で▲5.0。商業食品業 0.0、水産業▲15.8、機械工業 7.1、建設業▲6.7、観光・サービス業・諸業▲5.9

## (7) 設備投資の実施状況

今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について

### 設備投資の実施状況

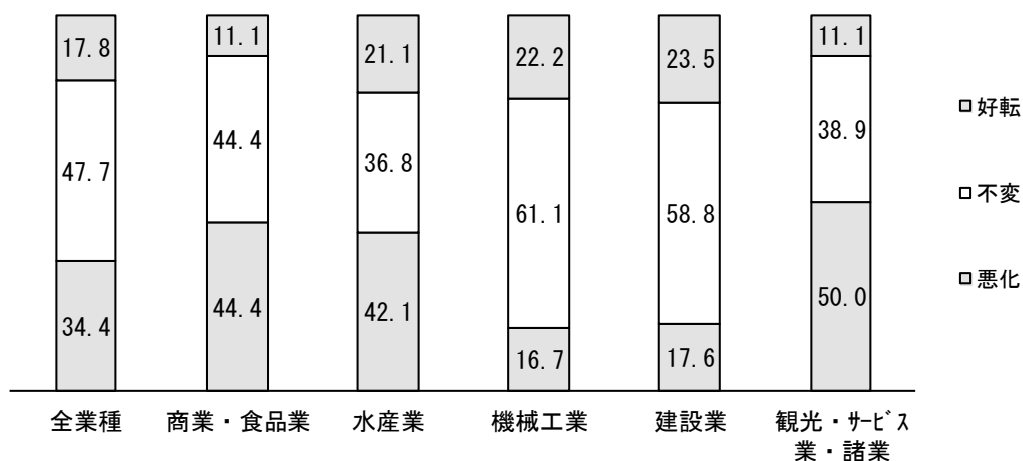


### 3. 来期の見通し

#### (1) 来期の業況

【今期比】（平成 26 年 1 月～3 月期の水準と比較した来期の業況見通し）

#### 次期の業況見通し（今期比）

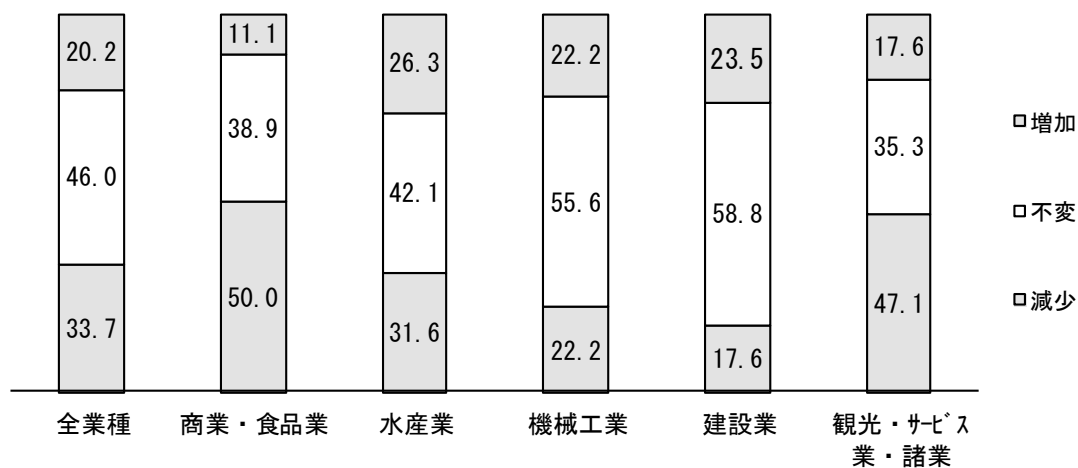


全業種平均 DI 値▲16.6 [今期の業況（前年同期比 4.5）より 21.1 ポイント悪化の見通し]

#### (2) 来期の売上高・生産高

【今期比】（平成 26 年 1 月～3 月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）

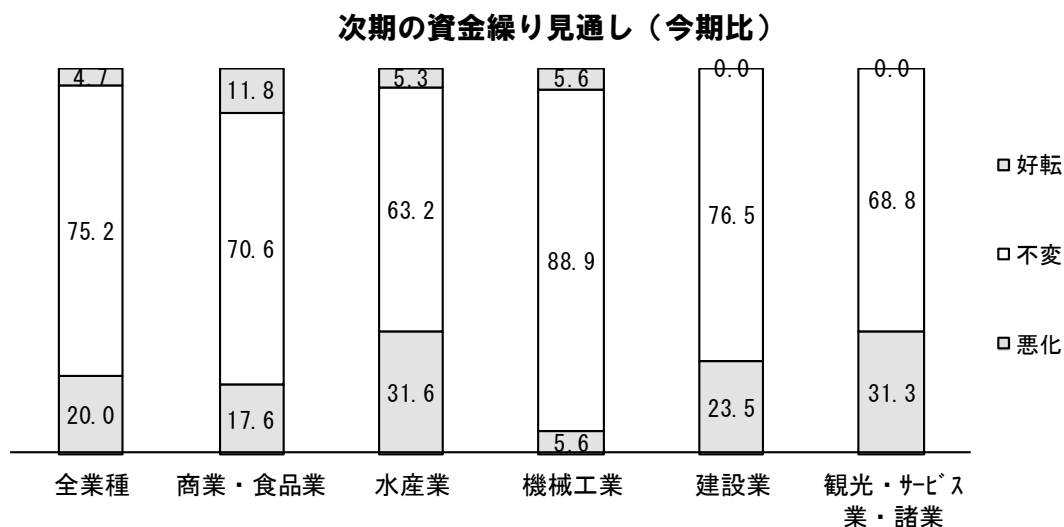
#### 次期の売上高・生産高見通し（今期比）



全業種平均 DI 値▲13.5 [今期の売上高・生産高（前年同期比 18.9）より 32.4 ポイント悪化の見通し]

### (3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（平成 26 年 1 月～3 月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）



全業種平均 DI 値 ▲15.3 [今期の資金繰り（前年同期比▲3.4）より 11.9 ポイント悪化の見通し]

## Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食 品 業	水 産 業	機 械 工 業	建 設 業	観 光 サ ビ ス 入 ・ 諸 業
業況判断 D・I	今期実績	4.5	△11.1	△31.6	33.3	35.3	0.0
	来期見通し	△16.6	△33.3	△21.1	5.6	5.9	△38.9
売上 D・I	今期実績	18.9	27.8	△21.1	33.3	41.2	16.7
	来期見通し	△13.5	△38.9	△5.3	0.0	5.9	△29.4
在庫 D・I	今期実績	△16.2	△5.6	△26.3	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	△1.1	△5.6	△26.3	22.2	11.8	△5.6
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	△3.4	△5.6	△10.5	22.2	△5.9	△18.8
	来期見通し	△15.3	△5.9	△26.3	0.0	△23.5	△31.3
金融機関 貸出姿勢 D・I	今期実績	2.5	7.1	△21.1	40.0	0.0	△5.9
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
借入金 金利水準 D・I	今期実績	△5.0	0.0	△15.8	7.1	△6.7	△5.9
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準 D・I 値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。